

(様式第1号)

自己評価票

(個別表)

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	☒ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアスタッフ一同でマザーレイク理念を作成		
2	2	☒ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内(玄関・リビング)に理念を掲示。定期的にスタッフ研修にて理念を読み上げる。		
3		☒ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内に掲示。運営推進会議やお便りなどにも記載している	○	ホーム主催で講習会を設けるなど積極的にかかわっていききたい
理念と共有 3項目中 3 項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		☒ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の文化祭に作品を出品、またホーム行事参加を案内している	○	近くの住民講師に招き手芸教室を開いている。今後はご近所の方にも参加していただけるよう働きかける。
5	3	☒ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
6		☒ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会の老人会などの花の水やりや活動に協力している		
地域とのつきあい 3項目中 3 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I－3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	☒ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員がかかわっている。また評価前には評価の意義を説明している。		
8	5	☒ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回のペースで開催。家族、包括センターの職員や近隣住民、民生委員の参加を促している	○	もっと色々な近隣住民に参加してもらえるように働きかける
9	6	☒ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市役所の介護課によく訪問し助言をもらっている		
10		☒ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在ご利用者で権利擁護の制度を利用されている方がおり、どういうケースの方が利用するのか理解している。		
11		☒ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当があり、定期的に会議や点検するようにきめている		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5 項目					
		I－4. 理念を実践するための体制			
12		☒ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は双方で一部ずつ契約書を持ち一行一句読みながら時間をかけて納得の上契約するようにしている		
13		☒ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が運営推進会議に参加し、意見を出せる場を作っている。また、個々に利用者に対し意見を伺う機会をもうけ、スタッフ間で共有しケアに反映している		
14	7	☒ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の写真つきでお便りを送付している。また年に4回マザーレイク便りとして広報誌を発行		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	☒ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、直接話を伺ったり、ご意見箱を設置。また、定期的に第三者に苦情窓口があることを伝えている。		
16		☒ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ全員対象にミーティングを開催。		
17		☒ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ターミナル時や緊急時などスタッフの補充をしている		
18	9	☒ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時はご家族様にも事前に報告の上、ご入居者の情報交換を十分に行った上で行っている		
理念を実践するための体制 7項目中 7 項目					
Iー5. 人材の育成と支援					
19	10	☒ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回 段階別の自己評価表を元に自己評価を作成し個人面談にて今後の目標などを話あっている		
20	11	☒ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を受けた際に同業者との交流を図っている。管理者間で相互の職員研修などを計画している段階。同グループの職員研修を行っている。	○	GH間の交流は時間が取れずになかなか実現できていないので、是非実行していきたい。
21		☒ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室に冷暖房、パソコン、ポット、喫煙コーナーを設けている。		
22		☒ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤続年数に応じ、一定の研修費を自己啓発・自己学習のために使えることが出来る。月一回勉強会を担当制で発表している。		
人材の育成と支援 4項目中 4 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		☒ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の段階は環境の変化から来る不安も多くあることを受け止め接している。本人の情報を知る為にも積極的にコミュニケーションをとり情報をスタッフで共有している。		
24		☒ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や面接、契約時にゆっくりと時間を取り相談者のニーズを把握するようにしている		
25		☒ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や面接、契約時にゆっくりと時間を取り相談者のニーズを把握するようにしている		
26	12	☒ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化に不安が大きく見られそうなどきは、入居前に何度も遊びに来てもらう働きかけや、スタッフが面接に伺ったりしている。ご家族にも協力を要請する。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4 項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	☒ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご入居者のいろんな人生経験が生活の中で活かされることが多い。職員－入居者の隔たりなく喜怒哀楽を共にしている。		
28		☒ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスの参加や運営推進会議、行事などの参加を呼びかけご家族と共に喜怒哀楽を共にしていく取り組みを促している		
29		☒ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の関係を十分把握して上で個々に応じた働きかけをしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		☒ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚などご本人にとって大切な人が訪問していただけるようご家族などに働きかけている。	○	身体介護が重点をおいてくるとなかなか じみの場所へ出向く機会がなくなったの で、いけたら良い
31		☒ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ空間で物作りなどの作業やアクティビティを通して利用者同士がの関わり合いを持てるように支援している		
32		☒ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もサポートが必要な方や家族様にはお便りなど文通を通した付き合いなどを大切にしている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	☒ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人にかかわる事が多く(身体介護が多い為)本人の意向を聞く機会が多くある。適宜カンファレンスを開催		
34		☒ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成。入居時や入居後も新しい情報を追加している		
35		☒ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態に応じた記録を行いスタッフ間で共有している		
一人ひとりの把握 3項目中 3 項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	☒ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1度のカンファレンスや必要に応じて随時ミニカンファレンスを行っている。ご家族からの意見を徴収し、プランに反映している	○	ご家族のカンファレンスの参加を更に強化していきたい
37	16	☒ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時点で随時ミニカンファレンスを行いプランの追加や変更を行っている		
38		☒ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態に応じた記録を行いスタッフ間で共有している。個別ファイル。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	☒ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要物品の準備・補充や行政手続きなど代行している。柔軟に出来る範囲で要望に対応している。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		☒ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方に依頼している。手芸教室や行事のサポートなど	○	更に文化的・趣味的なことに取り組んでいきたい
41		☒ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	このようなサービスを活用したことはない	○	訪問歯科や出張のサービス、デイの利用などの支援が出来そうである
42		☒ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき交流する機会を持っている。またその際にはホームからの依頼や相談などにも応じてもらっている		
43	18	☒ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診をしてもらっている。緊急時なども迅速に対応してもらっている。(24時間)		
44		☒ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医に受診を行っている。また、電話での相談も対応してもらっている。		
45		☒ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の往診時に顔なじみの看護師が対応してくれている。日々の変化なども看護師に気軽に声をかけて相談にのってもらっている		
46		☒ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の状態を十分に説明した中で、早期に退院できるよう働きかけている。また、本人及び家族の意向を医師に伝えている。		
47	19	☒ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の意向を取り入れている。また、対応が可能なかどうか医師との調整及びスタッフ間でも十分話し合い本人にとって何が良いのかを決めている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		☒ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族の意向を取り入れている。また、対応が可能かどうか医師との調整及びスタッフ間でも十分話し合い本人にとって何が良いのかを決めている		
49		☒ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に不安が大きく見られそうなどきは、入居前に何度も遊びに来てもらう働きかけや、スタッフが面接に伺ったりしている。ご家族にも協力を要請する。		
地域資源との協働 10項目中 9 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	☒ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	ケアの方針にも掲げており、言葉遣いは特に気をつけている	○	不適切と思われた場合は、お互いで注意し合えるように取り組んでいきたい
51		☒ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ADLの低下と共に意志の表出がなかなか困難になっておられるが本人が今どのようにしてほしいのかを探りながら支援するように取り組んでいる。		
52	21	☒ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の形態や入浴、排泄方法など個々に応じて支援している		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3 項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		☒ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧や髭剃り、衣服など個々のおしゃれが維持出来るよう努めている。	○	外の美容院へ行くことが困難な場合も、ホーム内で美容院へおしゃれを楽しめるよう雰囲気作りに心がける
54	22	☒ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく食事を食べてもらえるように好みを取り入れたりしている。ADLの低下に伴い準備・片付けが困難になってきている	○	食べる意欲が湧いてくるよう今後も検討し、色々と食事への支援に力を入れる
55		☒ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々に応じた形態でおやつを提供している。嗜好品を好まれる方は身体上に制限があり本人が満足できているかという点でできていないことがある	○	形を変えて本人が満足できるような援助を検討する
56		☒ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リズムが不規則であることが多いが、一人一人が快適に過ごせるよう、個々に応じた支援や道具を活用している	○	排泄の信号を見落とす事を減少させる
57	23	☒ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ADLの低下に伴い、職員の都合で日時を決めていることが多いが、「入りたい、入りたくない」等の意向は伺って対応している。また、便失禁等の場合などは適宜入浴している。季節ごとに柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などを入れ楽しんでもらうよう支援している		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んで きたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		☒ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく 休息したり眠れるよう支援している	個々に応じて照明の度合いを希望により 変えている		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6 項					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	☒ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力 を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に応じて必要なときに支援している。 外食・買い物、歌など	○	もっとアクティブに活動できる方がいるので、外 出の機会をもっと多く持ちたい
60		☒ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物好きな方は自分の財布を持っており、一 緒に買い物に出かけた際に見守り、適宜支援して いる。		
61	25	☒ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸 外に出かけられるよう支援している	一人一人に合った外出の支援ができている		
62		☒ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の 利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見や外食など定期的に行っている		
63		☒ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよ うに支援をしている	電話口でやり取りが出来るよう支援して いる		
64		☒ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問で き、居心地よく過ごせるよう工夫している	他の視線が気にならないようお部屋を移 動したり配慮している		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 5 項					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		☒ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具 体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会にて身体拘束とはを勉 強する機会を設けている		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	☒ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠してあるが外出したい方がいた際はすぐに扉を開放している。入居者の安全を第一に出来る範囲で取り組んでいる		
67		☒ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者のいる前での申し送りの際はインシタルで報告しプライバシーに配慮している		
68		☒ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と感じたこと、思ったことをスタッフ間で共有し適宜対応している。		
69		☒ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険と感じたこと、思ったことをスタッフ間で共有し適宜対応している。ヒヤリハット報告書の活用。		
70		☒ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年消防による心配蘇生法の講習を受けている。避難訓練は年に2回消防の指導の下で行っている		
71	27	☒ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回消防の指導の下で行っているが近隣との協定書は書面で交わしていない。	○	自治会や近隣との協定書をお互い書面で交わす
72		☒ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、直接話をしたり電話や月次の報告書などで伝えて相談している		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8 項目					
		IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73		☒ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌に記録したり管理者に報告し迅速に対応できている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		☒ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬は把握できていないが高血圧や糖尿病、食べ合わせのあるものなどはスタッフが把握できている。重要な場合は日誌に赤で表示するなど工夫している		
75		☒ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を十分に取ったり食物繊維の多い食事メニューを工夫している		
76		☐ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は徹底して出来ていないが義歯などに食物残渣が見られたら適宜洗浄している。眠前は必ずしっかりとブラッシングを行っている	○	毎食後にきっちりと歯磨きできなくても、うがいや食べ残しが口腔内にないように点検するよう努める
77	28	☒ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた記録表で個々にあった支援を行っている		
78		☒ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者・スタッフはインフルエンザの予防接種を受ける。また来客者が菌やウイルスを持ち込まないように体調不良時の訪問を遠慮していただいている。また、マスクなど設置している。手洗いの推進		
79		☒ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ペーパータオルをキッチンに設置。ハイター消毒や熱による消毒を行っている。賞味期限外のものは一切出さない。こまめな買い物。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 6 項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		☒ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を出るとすぐに道路や崖になっている為、玄関を容易に開放し、門扉を設けて事故防止に努めている	○	建物前の道路向かい側が土地が下がっている為、危険。ガードレールの設置を行政に促したい
81	29	☒ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の匂いなど生活感のある空間づくりに努めている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		☒ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを2区画に分けることで状況に応じて移動できるようにしている		
83	30	☒ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意見を取り入れながら本人の馴染みのある道具などを持ち込んでもらうよう支援している		
84		☒ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床された後は窓を開けて換気している。入居者にあわせて空調温度を設定している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5 項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		☒ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室廊下に手すり設置。		
86		☒ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室に自力で行けるように分かりやすく表示したりプレートをつけて工夫している		
87		☒ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場を利用してティータイムをしたりしている		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3 項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項 目		取 り 組 み の 成 果 14 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人としての尊厳を大切にしている事。ご利用者の要望に可能な限り応えることができるように努めています。ご家族への月次報告。年4回のマザーレイク便り。一人一人

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	☒ 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	☒ 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3.	☒ 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	☒ 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	☒ 人材の育成と支援	4 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	☒ 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	☒ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	☒ 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	☒ 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	☒ 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	☒ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	☐ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	☒ 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	☐ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	6 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	☒ 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	☒ 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (☒ 5 項目／5項目)について

理念はだれもがわかりやすいもので、スタッフ感で共有できている。今後更なる地域の人々の理解していただけるよう、積極的に茶話会や講習会を主催していきたい

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (☒ 2 項目／2項目)について

入居者を始め、人としてのかかわりを大切に、丁寧に行っている。ご入居者はご高齢であり、急な体調の変化や、危険が多くあり、そういった点でもリスクマネジメントをしっかりと、また外部の協力も得ながら、安心してホームで過ごせるよう努めていきたい

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (☒ 4 項目／4項目)について

個々の希望や馴染みの情報を得ることは出来ている。それを今の生活の中に活用しきれていない点がIV野評価につながる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (☐ 6項目／7項目)について

認知症の進行と共に身体機能の低下を予防していく取り組みを積極的に取り組んでいきたい。また、家族やボランティアなどの協力を得て、個々に十分なケアが施されるよう努めていきたい。口腔ケアが十分でないことをスタッフが認識し口腔ケアは何故大切なのかを理解した上で徹底した取り組みをしていきたい。

V サービスの成果に関する項目について

一部のご利用者様にとって、毎日の全ての欲求が満たされているとはいいいがたい。身体ケアが重点を占めるようになり、楽しみの部分での援助がおろそかにならないよう努めていきたい。スタッフのチームワークはよくスタッフ一人一人の意見を吸い上げられるような関係である。地域を含め多くの人の理解の下でホームが行進していけたらと思う。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日: 2007 年 8 月 1 日

前回評価年月日: 2007 年 1 月 10 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目番号	優先順位	内 容				
20	4	同業者との交流を通じた向上	H19年10月	GH間の交流会の開催		
36	3	チームで作る利用者本位の介護計画	H19年9月～	ご家族にカンファレンス日を案内し参加を促す		
71	2	災害対策	H19年9月～10	近隣・自治会との協定書作成		
76	1	口腔内の清潔保持	H19年8月～	食後の口腔内チェック		